MEIJI MURA

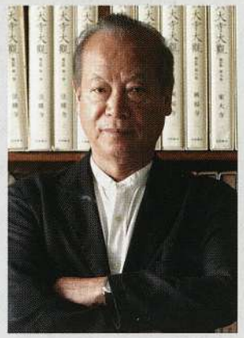
明治村だより Vol.77 2014 Autumn

CONTENTS

名電１号形と名古屋の発展 …… 2
グルメの先駆者・村井弦斎 ～『食道楽』と明治の食環境～ … 4
語り継ぐ建築 …… 5
明治村写真コンテスト紙上展覧会 …… 6
秋の催しもの …… 8
A La Meiji-mura ……10
新館長就任のご挨拶 …… 12

新館長就任のご挨拶

大学入学したての頃の授業で担当教授が、帝国ホテルでコーヒーを一杯飲んで、ゆっくりとその雰囲気を味わってきなさい。私の講義よりも、またヘタな建築の本を読むよりも、よっぽど勉強になる、とおっしゃった。地方から上京した私は、帝国ホテルがどこにあるかも知らず、級友と連れ立っていった。建築とは何かものすごいものだと感じ入り、私は何度かそこでコーヒーを飲むことになった。しかし、そのうちに帝国ホテルは、明治村へ移築保存されることになった。昨年久し振りに明治村を訪れる機会があり、帝国ホテルでは、初秋の光の中で何か小さな集いが催されていた様子で、私はそこにまぎれ込み、ロビーの片隅に腰掛け、遠い昔日を憶い出していた。建築の隅々にまで想いを込めることができることに対して、かつて驚きとして感じ入ったこと、その想いが人の気持に深いよろこびをもたらすことが可能であることを、私は今では理解している。何でもない当り前のようなことだが、その時幸せな気分に包まれた。



中川　武（なかがわ たけし）

●プロフィール
1944年、富山県生まれ
工学博士、早稲田大学理工学術院建築学科教授。
〈専門分野〉
比較建築史、文化財建造物の保存修復技術の研究（日本建築史、古代エジプト建築史、クメール古代建築史、ベトナム・フエの歴史的建造物群等）。

平成27年3月18日、明治村は開村50周年を迎えます。緊急避難と営々とした手当により、ようやく命を長らえてきた建築たちがほとんどでした。それが、いつのまにか、と思えるほど深い緑の陰や明るい湖畔への連なり、あるいは町並のにぎわいの中で、多くの文化財建造物や由緒ある貴重な建物等を通して、明治の佇いやそこに込められた想いを追体験し、それらを多様に楽しむことができるようになってきました。それが現在の明治村です。私はこれまでアジアを始めとした途上国の人々とのつきあいが多くありました。彼等の多くは、日本の近代化の中での明治が果した役割について関心を抱いています。そのためには知識、制度、技術だけでなく、明治の空気感のようなものを理解してもらうことが重要だろうと考えています。その鍵が、各々の時代の建築の中心にある総合性ではないでしょうか。彼等との交流を深めることは現代の日本人にとってもとても大切です。私たちが自らの拠って立つ場所を理解し、再構築することは未来へのステップであり、何よりも最高に楽しいことに違いありません。博物館明治村のそのような歴史ある志しのリレーに参加できることを私はよろこびとしています。

中川　武

新館長就任記念シンポジウム開催のお知らせ

テーマ「帝国ホテルとフランク・ロイド・ライト」

開催日：平成26年10月4日（土）
時　間：13：30～
会　場：聖ザビエル天主堂
聴　講：無料（要 入村料）

・パネラー：磯崎 新氏（建築家）ほか
・コーディネーター：中川 武（博物館明治村館長）

※詳細は、明治村公式ホームページをご覧ください。

表紙写真／待ちわびた蒸気機関車
〈撮影〉玉置良宗

平成26年9月12日発行
「明治村だより」第 77 号（平成 26 年　秋）

発　行　博物館明治村
〒484-0000　愛知県犬山市内山一番地　電話（0568）67-0314
http://www.meijimura.com

製　作　大日本印刷株式会社

『明治村 だより』 第 78 号発行のお知らせ
発行時期　平成26年12月中旬（予定）
申込方法　「明治村だより」第78号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

名電1号形と名古屋の発展

明治三十一（一八九八）年、京都に次ぐ、全国二番目の電車として名古屋電気鉄道が開通しました。開通当時に製造された車両は、乗客が増えるに従い新型車両の導入などにより予備車両となり、大正七（一九一八）年に開道五十年記念博覧会の開催で沸く札幌へと譲渡され、札幌電気軌道の車両として札幌の街を走りました。遠く離れた名古屋と札幌、この両都市を結びつけた「名電1号形」が約一世紀ぶりの里帰りを果たしました。

現在、三重県庁舎において名電1号形里帰り記念企画展示「展（ひら）く名古屋×拓（ひら）く札幌～電車がつないだ街とヒト～」が開催されています。ここでは名古屋電気鉄道が開通してから名電1号形車両が札幌へ譲渡されるまでをご紹介いたします。

写真1　名古屋明細全図　拡大

■名古屋の街と名古屋電気鉄道

名古屋は一六一〇年代から始まる城下町でしたが、明治に入ると初代名古屋区長の吉田禄在（よしだろくざい）の尽力によって、近代都市計画が作られます。そのひとつが広小路通りの整備であり、笹島停車場から愛知県庁舎（当時）が整備され名古屋の目抜き通りとして完成しました（写真1）。

明治三十一（一八九八）年、この広小路通りに日本で二番目の路面電車である名古屋電気鉄道が開通します。開通当初使用されていた車両は定員二十六名の小さなもので、腰板が「二段羽目」と呼ばれる下方が凹んだ形で、運転台は窓もなく吹きさらしの状態でした（写真2）。開通当初は物珍しさに乗客だけでなく沿線に見物の人が多く集まってきたことが当時の新聞記事に記録されています（写真3）。

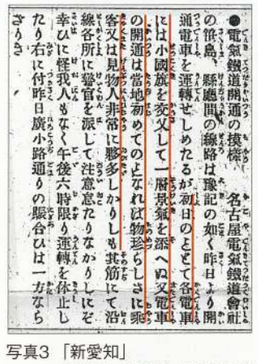

●電気鐵道開通の模様　名古屋電気鐵道會社の笹島、縣廳間の線路は豫記の如く昨日より開通電車を運轉せしめたるが初日のとて各電車には小國旗を交叉して一層景氣を添へぬ又電車の開通は當地初めてのことなれば珍らしさに乘客又は見物人非常に夥多しかりしも其筋にて沿線各所に警官を派して注意怠りなかりしにそ幸ひに怪我人もなく午後六時限り運轉を休止したり右に付昨日廣小路通りの賑合ひは一方ならざりき

写真3「新愛知」
明治31（1898）年5月7日付

その後名古屋電気鉄道は、明治三十四（一九〇一）年に押切線を敷設したのを皮切りに、最初に開通した広小路線を中央線開通に伴って千種駅まで延長させ、さらに明治四十一（一九〇八）年に熱田線を開通し、名古屋と千種、熱田の三地点が電車でつながれました。さらに、公園線、築港線、枇杷島線の開通と、名古屋市域の拡大に伴って路線を徐々に拡大していきました（図1）。また、明治四十三（一九一〇）年に鶴舞公園で第十回関西府県聯合共進会が過去最大規模で開催された時には、旅客輸送の重要な担い手となりました。

このように路線拡大等によって年間乗客者数を大幅に伸ばした名古屋電気鉄道は（図2）、その後明治末から大正時代にかけて名古屋市だけではなく、一宮、犬山、津島といった郊外へと路線を伸ばして、本格的な鉄道事業に乗り出しました。しかし、大正三（一九一四）年九月に市内電車の運賃値下げを求める市民が暴徒となり、車両や駅舎への放火を行なった焼打ち事件が起こります。これを発端として東京や大阪などの他都市と同じように名古屋市内の路線は名古屋市による運営となりました。

■名電1号形車両、札幌へ

路線の拡大、乗客者数の増加などから新型車両が導入され、車両台数は年々増えていきます。開通当初に使用されていた車両は大正四（一九一五）年頃に予備車両となり、このうちの二十四両が札幌電気軌道に譲渡されます。

札幌電気軌道は、大正七（一九一八）年に開催された開道五十年記念博覧会を契機に、札幌が北海道の主都として文化都市であることを示すため、市街地を走る馬車鉄道の一部区間を電気鉄道へと変えたものです。この開道五十年記念博覧会は、北海道庁主催によるもので、明治二（一八六九）年から始められた北海道の開拓事業を広く紹介するため、拓殖館、林業館、産業館など十五のパビリオンを設けて開催されました。開催と同時に開通する予定であった札幌電気軌道は第一次世界大戦の影響で当初予定していた海外からの資材購入が難しく、名古屋電気鉄道から使用されなくなった車両を譲り受けることとなりました。札幌への譲渡に際して、明治四十一（一九〇八）年から四十五（一九一二）年に名古屋で製造されていた通称「38形」（写真4）にならって運転台に三枚の窓（ベスチビュール）が取り付けられ、腰板を縦羽目とする形状となりました。この度の里帰りに伴い、名電1号形は札幌を走った当時の姿に復原されています。

この紙面では名古屋の街の発展を中心にご紹介いたしましたが、特別展示では札幌の街の拡がりについてもご紹介しています。期間限定の里帰りを果たした名電1号形車両とともに、この機会にぜひ企画展示にも足を運んでいただければ幸いです。

参考文献
・唐澤斗岳編『名古屋の建設者　吉田禄在翁を偲ぶ』（名古屋女子商業学校、昭和十三年）
・札幌市史編集委員会編『札幌市交通事業三十年史』（札幌市交通局、昭和三十二年）
・『名古屋鉄道百年史』（名古屋鉄道、平成六年）

グルメの先駆者（パイオニア） 村井弦斎 ～『食道楽』と明治の食環境～

明治三十六（一九〇三）年の一月から『報知新聞』において連載が始まり、明治時代にベストセラーとなった新聞小説『食道楽』は恋愛小説でありながら当時まだ一般的ではなかった西洋料理に使われる調理器具や食材を紹介し、家庭で作られる料理の幅を広げました。作者の村井弦斎が紹介した調理器具や食材の情報は、彼が実際に家庭生活で得た知識によるものでした。

村井弦斎は文久三（一八六三）年、吉田藩（現在の愛知県豊橋市）に生まれます。明治二十三（一八九〇）年に『郵便報知新聞』を発行していた報知社へ入社し、新聞小説家として活躍しました。弦斎は様々な趣味や道楽を取り上げた百道楽シリーズの執筆を始め、その中で人々への啓蒙を織り交ぜながらそれぞれの楽しみ方を紹介しています。そのひとつに『食道楽』があり、恋愛小説という体裁をとりながら、当時の美味しいものを紹介するだけではなく、新しい調理器具や食材に関する情報などを盛り込みました。

『食道楽』に記された食に関する知見は、妻である多嘉子によるところが大きかったようです。多嘉子は明治十三（一八八〇）年に東京に生まれます。父は大隈重信と従兄弟の関係にあり、叔母は後藤象二郎の妻でした。多嘉子は一時期、西洋料理のコックがいる後藤象二郎邸に叔母たちと共に暮らしており、西洋料理に触れる機会が多かったことが想像されます。弦斎は『食道楽続編　春の巻』のはしがきで「由来、余をして食道楽趣味に傾倒せしめしは、余が夫人多嘉子の君、力多きによる。味覚の俊秀（しゅんしゅう）、調味の懇篤（こんとく）、君は実に我が家のお登和嬢たり。」と、『食道楽』を執筆するにあたっての多嘉子の助力を評しています。

まず、『食道楽』に紹介されている調理器具を見てみましょう。『食道楽　夏の巻』には「台所道具の図」（写真1）と「西洋食器類価格表」の付録があり、当時使用されていた西洋料理用の調理器具とその値段を知ることができます。これを見ると、フライパンは三十五銭から大きなものは一円、煮込み鍋は五〇銭から四円五〇銭です（表1）。当時かけそば一杯が約二銭であったことを考えると、やや手を出しにくい値段であることがわかります。しかし弦斎は毎回注意して使い込めば「買う時に高い様でも長く持つから大層徳用です」と記して西洋料理用の調理器具の利用を薦めています。

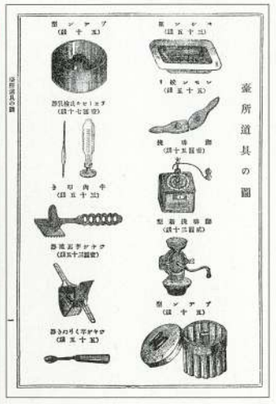


写真1「台所道具の図」

西洋食器類価格表（抜粋）

フライパン／フライ鍋	鉄製／小形金三拾五銭以上大形金壱円迄
シチューパン／煮込鍋	鉄製／小形金五拾銭以上大形金四円五拾銭迄
ソースパン／ソース鍋	鉄製／小形金壱円以上大形金五円迄
スープパン／スープ鍋	鉄製／金壱円以上
テンパン／蒸焼鍋	鉄製／小形二十銭以上大形六十銭
コーヒーミル／コーヒー挽き	ブリキ製／小形二十銭以上大形六十銭
コーヒーミル／コーヒー挽き	上製／金式円五十銭
コーヒーミル／コーヒー挽き	並製／金壱円二十五銭
（原名／訳名／品質／価格）	

表1　西洋食器類価格表（抜粋）

弦斎はこうした調理器具を実際に所有していました。明治三十九（一九〇六）年に発行された雑誌『婦人画報』には弦斎宅の台所写真が掲載されており普段使用している調理器具が並べられています（写真2）。また弦斎は、購入したものを使うだけではなく、自身でも調理器具を考案しており、一般家庭でも西洋料理を手軽に作れるような工夫も考えていました（写真3）。

『食道楽』はその後書籍化され、当時のベストセラー小説となります。一躍有名となった弦斎はその印税をもとに、明治三十七（一九〇四）年に神奈川県の平塚に広大な敷地を購入します。敷地内に家庭菜園を設け、明治時代に海外から入ってきた西洋苺やトマト（赤茄子）、レタス、アーティチョークなどを栽培します。そして毎年五月には仕事関係者やその家族を招待し、イチゴ会と称したホームパーティーが開催されました（写真4）。イチゴ会では収穫したたくさんのイチゴとともに多嘉子の手料理が振舞われました。この会以外にも平塚の家には『食道楽』の反響で、各地から名産品が集まり、それを使って多嘉子が使用人たちとともに小説に登場するようなハイカラな料理を作る会も催され、新聞・雑誌の記者をはじめ政財界の人々が集いました。

写真2　村井家所有の調理器具

明治三十八（一九〇五）年には、とある一家の妻君と使用人の女性が会話している形式で、料理だけでなく掃除方法などの衛生面にも言及し、台所仕事に役立つ情報を盛り込んだ『実地体験台所重宝記』を刊行します。「家庭改良の最良指針」という謳い文句で販売され、台所仕事に従事する女性たちから支持を得たようで、弦斎は翌年創刊された月刊誌『婦人世界』の編集顧問に迎えられます。この雑誌では弦斎が「婦人の日常生活法」や「夫婦情愛論」など、家庭における女性や夫婦の在り方についての文章を寄せると同時に、「弦斎夫人の料理談」と題した連載で多嘉子も活躍します（写真5）。この連載には読者からの投稿が多く単行本としても出版され、当時の女性たちの手本となりました。

このように村井弦斎は「グルメの先駆者」として自宅で食材の研究を重ね、妻の多嘉子がそれらを調理しふるまうことで当時の人々に新たな食文化を紹介し、西洋料理を一般家庭に普及させる一助となりました。

写真5「弦斎夫人の料理談」

九月十三日より東山梨郡役所（二丁目十六番地）において、村井弦斎生誕百五十年を記念した企画展示を行います。食という観点から日本の人々の暮らしを豊かにしようとした村井弦斎の活躍と当時のグルメ事情を、『食道楽』連載当時の新聞切り抜きに加え、村井弦斎考案の割烹着、明治時代の食器や調理器具などからご紹介します。展示を通して、村井夫妻の活躍とともに明治時代の食生活に触れていただく機会としていただければ幸いです。

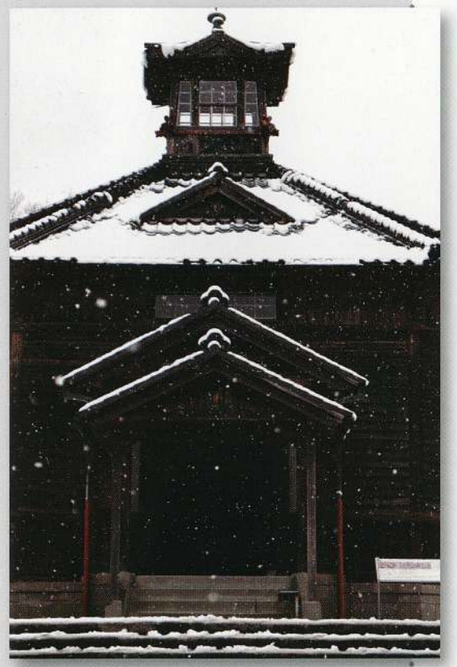
（写真の※印は平塚市博物館所蔵）

明治村写真コンテスト 紙上展覧会

明治村 大賞

「ハイカラさん」 井上 雅弘

明治のある風景賞 特賞

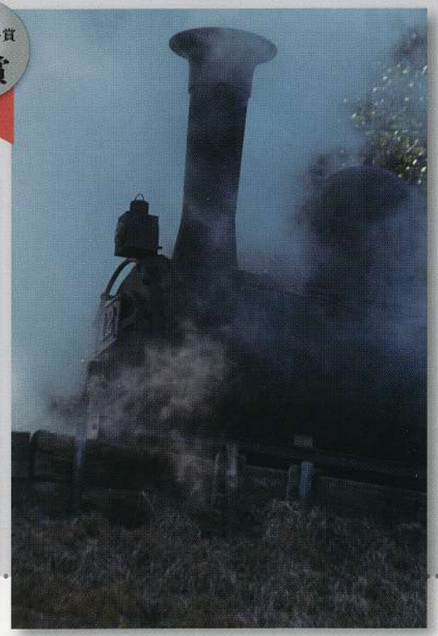


「雪舞う金沢中央看守所」 松岡 節子

村でのひととき賞 特賞

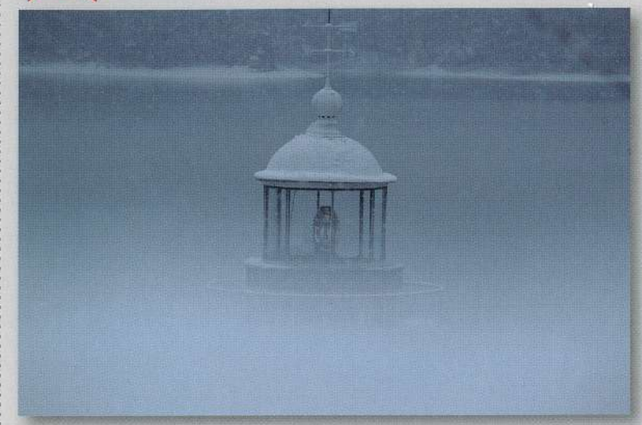
「girls talk」 田中 賢

鉄ショット賞 特賞



「時空を超えて…」 平井 明子

季節のうつろい賞 特賞



「風雪に浮ぶ」 吉川 徹

フェスティバル賞 特賞

「勢揃い」 小島 康生

協賛会社賞 CAPA賞

「夏の終り」 長谷川 能文

協賛会社賞 ハクバ写真産業賞

「素敵な思い出」 池本 文秋

協賛会社賞 富士フイルム賞

「春うらら」 沖林 富士夫

（敬称略）

これらの入賞作品は平成26年9月13日（土）～11月30日（日）、東山梨郡役所2階で展示されます。

明治村写真コンテスト「明治村百景」募集要項

- テ ー マ：明治村を表す作品
  明治村の四季折々の美しさや賑わい、
  明治村を楽しむ人々の心温まる風景や
  イベントの様子
- 応募期間：平成26年7月1日（火）～平成27年6月30日（火）
- 規　　定：詳細は専用チラシ・HPをご覧下さい
- 締め切り：平成27年6月30日（火）（当日消印有効）
- 表彰式/写真展：平成27年秋を予定
- 主　　催：博物館 明治村
- 応 募 先：〒484-0000　愛知県犬山市内山一番地
  博物館明治村写真コンテスト係

- 賞：明治村大賞 …… 1点
  ・賞金10万円／記念品／賞状
  明治のある風景賞〈建物や村内の風景を収めた写真〉 …… 2点
  鉄ショット賞〈SLや京都市電など乗り物の写真〉 …… 2点
  フェスティバル賞〈村内で開催されたイベントの写真〉 …… 2点
  村でのひととき賞〈村内で過ごす人物主体の写真〉 …… 2点
  季節のうつろい賞〈季節を感じられる写真〉 …… 2点
  ・特賞：賞金2万円　・入選：賞金1万円／記念品／賞状（各賞1点づつ）
  富士フイルム賞 …… 5点
  ハクバ写真産業賞 …… 2点
  CAPA賞 …… 2点
  審査員特別賞 …… 10点
  ・記念品／賞状

賞や賞品等について予告なく変更する場合があります。

見て、食べて、遊んで。愉しみ、いろいろ。

明治まるごと

平成26年9月13日(土)～11月30日(日)

※会場・時間等は天候等の都合により変更する場合があります。

明治ゆかりのカレーフェア

この秋、明治村ゆかりのカレーが大集合！

明治から続く老舗や当時の小説『食道楽』に記載されたレシピを再現したカレーなど、こだわりのカレーを、各飲食店舗にてご用意！

五島軒のあいがけカレー
■ 浪漫亭　1,200円

五島軒のあいがけカレー

帝国ホテルオリジナル 英国風ビーフカレー
■ 食道楽のカフェ　1,200円

英国風ビーフカレー

札幌スープカレー
■ 浪漫亭　1,200円

弦斎(げんさい)カレー（1日限定20食）
■ 和食処 碧水亭　1,200円
※毎週月曜日(祝日は除く)および貸切営業日はご提供できません。

札幌スープカレー

大井肉店 熟成ビーフカレー
■ めん処 なごや庵　900円

明治のカレーライス
■ 浪漫亭　900円

食道楽(しょくどうらく)のカレー
■ 食道楽のカフェ　750円

弦斎カレー

生誕150年記念 “グルメの先駆(パイオニア)者”
村井弦斎の『食道楽』を食べる

愛知県豊橋市出身の“グルメの先駆者”村井弦斎の生誕150年を記念して、明治時代の大ベストセラー『食道楽』の中で紹介された料理を現代風にアレンジして再現！レトロで、どこか懐かしい明治時代の料理をお召し上がりいただけます。

■ 協　力：豊橋市図書館、豊橋調理製菓専門学校、村井弦斎の会、平塚市博物館

『食道楽』レシピ再現メニュー　期間限定　期間中

①赤茄子飯のオムライス（『食道楽』秋の巻）〈浪漫亭〉……1,200円　(9/13～10/19)
②食道楽のビーフシチュウ（『食道楽』春の巻）〈浪漫亭〉……1,400円　(10/20～11/30)
③秋茄子の鍋田楽御膳（『食道楽』秋の巻）〈和食処 碧水亭〉……1,300円
※毎週月曜日（祝日は除く）および貸切営業日はご提供できません。
④鮪(まぐろ)ライスカレー御膳（『食道楽』秋の巻）〈和食処 碧水亭〉……1,300円
※毎週月曜日（祝日は除く）および貸切営業日はご提供できません。

『食道楽』レシピ 再現&試食会

“お米のオムレツ”と“ジンジャービスケット”を、『食道楽』のレシピをもとに調理し、お客様にご試食していただきます。

■ 開催日：11月8日（土）
■ 講　師：豊橋市中央図書館一座
■ 会　場：三重県庁舎「彩の間」
■ 定　員：50名

村井弦斎記念展

ベストセラー小説となった『食道楽』連載当時の新聞切り抜きに加え、村井弦斎考案の割烹着(復元)、明治時代の食器や調理器具などから、当時のグルメ事情を紹介します。

■ 会　場：東山梨郡役所1階　期間中

ニッカウヰスキー創業80周年×明治村開村50周年
「竹鶴政孝とリタの物語」

日本のウイスキーの父といわれるニッカウヰスキー創業者の竹鶴政孝と彼のウイスキー作りを支えた妻リタ。二人の物語を紹介するミニパネル展を芝川又右衛門邸で開催。

■ 会　場：芝川又右衛門邸、工部省品川硝子製造所　期間中
■ 協　力：アサヒビール株式会社

秋のウエディングフェア

■ 日時：11月22日（土）
■ 会場：聖ザビエル天主堂
お問合せ ☎0120-78-2205

明治サーカス団

日本のサーカスは明治に始まる。曲芸、倒立芸、道化芸などパフォーマーによる、笑いあり、感動ありの軽ワザをお楽しみください！

■ 開催日：9月13日（土）～11月3日（月・祝）の土日祝
■ 会　場：第四高等学校 武術道場「無声堂」
※開催日は無声堂内部のご見学はできません。あらかじめご了承ください。
■ 時　間：①11：30～　②13：00～　③14：30～（各約20分）
■ 料　金：一人100円／■ 定　員：各150名
■ 出　演：プレジャーB

呉服座グランド歌舞伎公演

世界無形文化遺産に登録されている歌舞伎。初心者の方にも親しみやすく、分かりやすい演目を上演します。日本が誇るエンターテイメントをこの機会にぜひ、ご覧ください。

■ 開催日：11月8日（土）～11月26日（水）※11月19日（水）は除く
■ 会　場：呉服座
■ 時　間：①10：30～12：30　②13：30～15：30
■ 料　金：※入村料と鑑賞券のセット券もございます。

	種　別	前売券	当日券
鑑賞券（S席）（別途入村料必要）	大人・大学生	5,700円	6,500円
	シニア（65歳以上）	2,900円	3,500円
	高校生・小中学生	2,500円	3,000円

■ 主　演：松井誠、菊月喜千壽、一越和城 ほか
■ 主　催：グランド歌舞伎実行委員会
■ 販　売：イープラス、チケットぴあ ほか

昭憲皇太后崩御100年「御料車内部特別公開」

歴代の御料車（皇室客車）の中で
も最も美しいといわれ、「動く宮殿
の異名を持つ明治天皇御料車内部
とともに、昭憲皇太后御料車内部を
特別に公開します。

■ 期　間：9月27日（土）～10月26日（日）
■ 会　場：鉄道局新橋工場
■ 時　間：10：00～12：00　13：00～15：00
※人数を制限させていただく場合があります。
■ 協　力：東海旅客鉄道株式会社

あかりの明治村

延長開村　19：00まで

開催日は19時まで延長開村。さまざまな“あかり”に彩られた、秋ならではの美しくしっとりとした雰囲気をお楽しみいただけます。

■ 開催日：11月1日(土)～24日(月・祝)の土日祝（ただし11月3日は除く）
※雨天中止

品川燈台特別公開

通常は非公開となっている品川燈台の内部を特別公開。夜間には明治時代の灯器の点灯実演、また2日には、海洋少年団によるロープワークの実演を行います。
■ 開催日：1日（土）、2日（日）
■ 協　力：第四管区海上保安本部 一般社団法人 燈光会、大日本アガ株式会社

西園寺公望別邸「坐漁荘」夜間特別公開

約2年ぶりの一般公開後、初めての夜間特別公開。
■ 開催日：1日（土）、2日（日）、8日（土）、9日（日）

紅葉ライトアップ

夜に浮かび上がる紅葉と建物の競演をお楽しみください。
■ 開催日：15日（土）、16日（日）、22日（土）～24日（月・祝）
■ 会　場：1丁目（西郷従道邸付近）

津軽三味線
■ 開催日：15日（土）、16日（日）、22日（土）～24日（月・祝）
■ 会　場：西郷従道邸
■ 時　間：①15：30～ ②17：00～ ／■ 出　演：山口晃司

錦秋の美酒(うまさけ)

ライトアップされた紅葉を愛でながら、美味しいお酒と肴をお召し上がりください。
■ 開催日：15日（土）、16日（日）、22日（土）～24日（月・祝）
■ 会　場：西郷従道邸前
■ 時　間：16：00～19：00　※ラストオーダー／18：30

NEW 聖ザビエル天主堂×プロジェクションマッピング

教会堂がバーチャル・アートで彩られるほか、札幌電話交換局でも上映を行います！
■ 開催日：8日（土）、9日（日）、15日（土）、16日（日）、22日（土）～24日（月・祝）
■ 協　力：名古屋造形大学

NEW 地元三大陶器による灯り　あかりの明治村開催日

「瀬戸焼」「常滑焼」「美濃焼」の灯りのオブジェを建物内や村内苑路で展示。やわらかな灯りが、見る人の心を温かく包みます。
■ 協　力：瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会
あいち産業科学技術総合センター
常滑窯業技術センター、土岐津陶磁器工業協同組合

5丁目イルミネーション&ライトアップ「あかりの競演」　あかりの明治村開催日

帝国ホテル中央玄関蓮池に浮かぶ「水上のあかり～水面鏡～」など、多種多様な灯りで幻想的空間を演出します。

錦絵行燈（2丁目レンガ通り）　あかりの明治村開催日
■ 会　場：レンガ通り（2丁目）

「きもの」で歩く明治村

11月15日(土)～24日(月・祝)の土日祝
11月は和服でご来村の方は入村料半額！

きもの着付け体験

紅葉の美しい明治村を、素敵なきものでお散策してみませんか？
■ 会　場：学習院長官舎
■ 時　間：13：00～17：00（女性限定）
■ 料　金：1,000円（90分）
■ 協　力：一般財団法人 民族衣裳文化普及協会

紅葉茶席

眺望豊かな秋の日本庭園での野点席です。お気軽にご参加ください。
■ 会　場：日本庭園
■ 時　間：10：30～（菓子がなくなり次第終了）
■ 料　金：一服600円

チェキde記念撮影

美しい紅葉を背景に、インスタントカメラ「チェキ」で撮影します。※各日先着200枚限定
■ 開催日：11月22日（土）～24日（月・祝）
■ 受　付：学習院長官舎
■ 時　間：10：00～12：00、13：00～16：00
■ 料　金：1枚100円（23日はお一人様一枚無料）

※きもの着付体験・紅葉茶席は悪天候の場合、中止となることがあります。

※写真はイメージです。　※催事内容は予告無く変更・中止する場合がございます。詳しくはお電話でお問合せいただくか明治村公式HPをご覧ください。

お問い合せ先　http://www.meijimura.com または 0568-67-0314

札幌 石の建築探訪

～故原田栄三氏作 建築模型コレクションから～

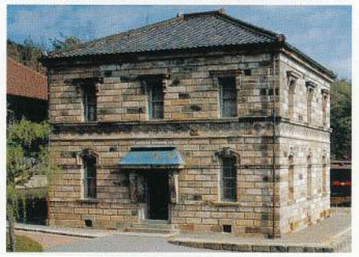
現在明治村では名電1号形里帰り特別企画として、「展く名古屋×拓く札幌～電車がつないだ街とヒト～」が開催されています。

明治村で札幌というと、二丁目二十一番地に移築されている札幌電話交換局が挙げられます。この建物は、当時火災が頻発していた札幌の街において、大切な電話交換機の焼失を防ぐため外壁には分厚い石が用いられています。これらの石は札幌市近郊の定山渓で採石されたもので、札幌の街にはこの石が用いられた建物が他にも数多く建てられました。

そこで、展示の詳細や電車については本号別稿に譲り、ここでは、札幌の街に石を用いて建てられた建物を、企画展に出品されている、故原田栄三氏製作による建築模型から見ていきたいと思います。

※建物名に付された数字および模型マップ上の数字は、特別展の出品順、マップの表記と異なります。
※住所は全て現行の住所を表記し、現存しないもの、移築・復元されたものは、竣工時の住所を示しています。

●札幌電話交換局（2丁目21番地）



開拓使の本庁舎は、開拓使顧問団によって構想され、明治五（一八七二）年に工事が着手、翌年竣工しました。建物正面にある三角形のペディメント、中央に冠された八角ドームは、十九世紀アメリカに見られたもので、建設に際して顧問に招かれたアメリカ人技術者たちの影響をうかがわせます。建物の基礎部分には札幌で採石された硬石が使用されていました。

建物は明治十二（一八八九）年二月に焼失してしまいましたが、札幌市内の野外博物館「北海道開拓の村」に復元され、ビジターセンターとして利用されています。

明治十九（一八八六）年七月に、北海道庁設置にともない建築に着手され、同二十一年に竣工しました。主要建材の煉瓦、木材等は北海道産のものが使用され、石は札幌硬石が用いられています。

正面に高くそびえる八角塔は、明治六（一八七三）年に建てられた開拓使札幌本庁舎のものを模しています。昭和四十三（一九八六）年の開道百年を記念して創建当時の姿に復され、現在はギャラリーや文書館などとして、道内外の人々に広く利用されています。

秋野総本店薬局は明治五（一八七二）年、札幌の中心街に創業された老舗薬局です。

この教会は、明治十（一八八七）年札幌農学校の第一期生十四名が、函館在住のキリスト教メソジスト派の宣教師ハリスから洗礼を受けたことが始まりとされます。彼らは明治二十二（一八八九）年にこの教会の前身となる木造の札幌美以教会を設立します。しかし、同三十六（一九〇三）年の火事により建物を焼失したことから、この教会堂が新築されました。

設計は当時北海道庁土木課技師で、札幌教会員であった間山千代勝によって手がけられ、外壁に積まれた石は、札幌軟石が使用されています。

明治三十四（一九〇一）年の火災で、創業時の店舗を焼失したため、木造の店舗と札幌軟石を使用した蔵が再建されました。軟石造の蔵は今でも薬の保管庫として使用されています。

開拓事業への資本融資を目的として明治四十二（一九〇九）年、北海道拓殖銀行が設立されました。新築された建物は、大蔵省臨時建築部の建築家である矢橋賢吉による設計で、外壁には札幌軟石が使用されています。

昭和三十四（一九五九）年の本店新築に伴い、旧本店の建物は札幌市中央区宮ノ森に同行研修所として建物の一部が移築されましたが、平成十四（二〇〇二）年に取り壊されました。

明治十四（一八八一）年、札幌でカトリックの伝道が始まり、明治三十一（一八九八）年に、軟石造の聖堂（現 司祭館）が建てられます。その後、大正五（一九一六）年にドイツ人神父フェルゲットの設計により、現在の聖堂が建設されました。「守護の天使」という名を持つこの聖堂は、高くそびえる尖塔を冠し、中世ヨーロッパの教会堂の雰囲気を醸しだしています。

馬場農場は、馬場和一郎氏が昭和二（一九二七）年に創設した農場で、種畜の生産と生乳の加工を主に行なっていました。このサイロは農場内にあったもので、外壁には軟石が使用され、高さ九メートル、直径六・二五メートルの、当時としては大規模なものでした。

昭和三十三（一九五八）年に札幌市が農場の土地を買収して、翌年から市営「ひばりが丘団地」が造成されましたが、このサイロは現在も団地のシンボルとして保存されています。

札幌市南区の石切山では、明治七（一八七四）年から軟石の採石が始まり、札幌市街まで石を運ぶための馬車鉄道が開通します。札幌軟石の搬出路であった道は「石山通り」と呼ばれ、今もその名を残しています。

石山郵便局は同地の軟石が使用された二階建ての建物で、正面入口上部の大きなアーチは、通りを行く人々の目を惹きました。郵便局としての役割を終えた後、平成九（一九九七）年に、「ポストかん」という名称となり、地域の人々にも解放されています。

○

ここまで、札幌市内に石を用いて建てられた建物を紹介してきましたが、明治時代の北海道では、小樽や函館も貿易港として大変な隆盛を見せました。その影響もあり、小樽や函館には大小の倉庫群や商家、あるいは銀行や海運業者のオフィスなどが立ち並び、これらの建物にも北海道内で採石された石が用いられています。

この建物は、工部大学校造家学科（現 東京大学建築学科）で学んだ一期生の一人、佐立七次郎の設計で、佐立が設計した現存する数少ない作品のひとつです。外壁に小樽天狗山産の軟石、軒や腰・胴蛇腹に登別産の硬石が使用されており、札幌以外にも各地で採石が行われていたことがうかがえます。現在同建物は、平成二十七（二〇一五）年三月三十一日まで保存修理調査工事が行われています。

この教会の始まりは、安政五（一八五八）年、函館のロシア領事館に領事館付の司祭が着任した時とされます。司祭が派遣された翌年に木造の聖堂が建立されましたが、明治四十（一九〇七）年の火災で焼失し、その後大正になって再建されたのがこの聖堂です。

建物の一部には花崗岩が用いられ、屋根の上には特徴的なたまねぎ形の塔が飾られています。建物を設計した河村伊蔵は、愛知県の南知多に生まれた建築家でありハリストス教会の聖職者でもあったことから、函館のほか、愛知県の豊橋や福島県の白河など日本各地ののハリストス教会の聖堂の建築を手がけています。

ここで紹介した建築模型は、いずれも原田氏によって長い年月をかけて制作された非常に精密で美しいものばかりです。ぜひ一度企画展会場で建築模型を実際にご覧いただき、建物に使われた石が持つ、防災・防寒といった機能とともに、石が見せるさまざまな表情もお楽しみください。

参考文献
・越野 武『北海道における初期洋風建築の研究』北海道大学図書刊行会一九九三
・日本建築学会『総覧 日本の建築 第一巻／北海道・東北』新建築社一九八六
「日本近代建築総覧」技報堂出版株式会社一九八〇
参考ホームページ
「札幌軟石物語」石切山街道まちづくりの会
http://ishiyama-net.jp/rekishi-meisho/nanseki-monogatari/nanseki-top.html
（二〇一四年八月情報取得）